

わかまつ通信

平成27年度 第1号

発行 吉備高原学園高等学校
岡山県加賀郡吉備中央町上野 2400 番地
Tel 0866-56-8211 Fax 0866-56-8214
<http://www.kibikogengakuen.ed.jp/>

～「わかまつ」は吉備高原学園高等学校校歌の歌詞に由来～

もう“不登校”とはいわせない！

～ 4月11日入学式、121名が全寮制の吉備高原学園高等学校の扉を開きました。～



校長祝辞



入学生代表宣誓

吉備高原学園高等学校は岡山県が施設整備を行い、岡山県と民間で構成する学校法人が運営する全国初の公私協力方式の普通科高等学校です。平成3年に開校した本校ですが、今年度は定員100名の募集に対して121名が入学しました。大半が不登校を経験している生徒で、不登校を克服したいとの意志で全寮制の本校を選択しました。入学生代表は、行動に責任を持ち、自立した高校生活を送り、寮生活を通して人の気持ちを理解し人の役に立てる人間になるために全力で励むと宣誓しました。

☆全寮制の特徴。

吉備高原学園高等学校には、人間関係をはじめ何かにつまずき、不登校を経験した生徒が多く在籍しています。人間関係でつまずいた生徒には、理屈や理論ではなく、寮生活・学校生活を通じて、人との出会いを大切に、多くの人と触れ合い、人との信頼関係を築き成長していく事が重要です。一人ではなかなか一歩を踏み出せなくても、同じ屋根の下で寝食を共にする先生方や仲間と励まし合い、仲間に支えられ、力を合わせれば、頑張る事が出来ます。

☆教育方針として「つなぐ力」の育成。

1年生は「心をつなぐ」、2年生は「信頼をつなぐ」、3年生は「将来へつなぐ」がそれぞれの学年目標です。本校は何かにつまずいた生徒の立て直し・再スタートに力を入れており、本校での学校生活を通して、自分を変える為に一歩を踏み出し、心身とも健康な若者として成長し、いきいきと次の社会で活躍出来る若者に成長する事が我々の願いであり目標です。

■平成27年3月、不登校を克服し、卒業した生徒が残したメッセージです。(抜粋)

◆人と話せるようになった。意志を通せるようになった。

中学入学とほぼ同時に不登校になり、三年間相談室登校をしました。高校は不登校の経験者が多い全寮制の吉備高原学園高校に入学しました。入学したその日、学校になじんでいる先輩たちを見て、「本当にこの人たちは不登校だったのか」と思うことがありました。しばらく吉備高原学園高校での生活が続き、気が付くと自分の過去をさらけだしたり、意志を通したりできるようになりました。自分が気づかぬうちに友達が増え、一緒にふざけたり泣いたりできるようになっていました。今までの私は、話したくても話しかけられないことが多く、人の話に入っていくのが苦手な友達を作る労力を使うくらいなら一人でいたいと思っていましたが、私が変わったのは同じような経験をした人の多い吉備高原学園高校へ入学したからだと思います。(平成27年3月卒・岡山県出身女子)

■毎日新聞(京阪神版・夕刊)のコラム欄に吉備高原学園高等学校の卒業式がとりあげられました。

7

社会

4版

2015年(平成27年)4月11日(土)夕刊

毎

日

新

聞

※転載：毎日新聞社許諾済み

卒業生 3年後の涙

壇上で祝辞を述べようとするPTA会長の男性は、感極まっていた。「教職員の方々が、子供に笑顔と自信を与えてくださったことに心から感謝している。3年前、娘は中学校で1人だけの卒業式だった」。涙ながらに、そう話した。

3月2日、岡山県吉備中央町にある吉備高原学園高校の卒業式。95人がまなびやを後にした。生徒は全国から集まる。8割が中学時代に不登校を経験しているという。親元を離れ、全寮制での共同生活で仲間をつくり、生活のリズムを立て直す。個性に合う分野を見つけられる。

よう、幅広く専門的な学習に取り組む。成長するのは子供だけではない。PTA役員は夫婦で務めることになっている。「子育てを母親だけに任せてきた家庭も多い。子供のため、夫婦で協力してもらえば」と木畑廣伸校長。2月に役員を送る会がある。2人で苦勞を分かち合った日々を思い、教職員や巣立つ我が子への感謝を語り、笑顔と涙にあふれる。11日は同校の入学式。約1200人の1年生は寮に入り、両親らは家路に就く。不安と別れの涙は、3年後、きっと万感の涙に変わるはずだ。【八重樫裕一】

2015.4.11

■在校生が母校訪問をした際の感想を中学校の先生方からいただきました。(裏面へ)



これからが、ここからはじまる。

吉備高原学園高等学校

全日制 / 普通科 / 全寮制

〒709-2393 岡山県加賀郡吉備中央町上野 2400 番地
Tel 0866-56-8211 Fax 0866-56-8214

■在校生が母校の中学校を訪問した際の感想を中学校の先生方からいただきました。

＜吉備高原学園高等学校へ入学したFさんがその年の11月に母校を訪問、対応してくださったM先生の感想＞

正直、人というものがこんなに変わることが出来るのだ、と驚いています。というのも、高校入学前まではFさんの生活は昼夜逆転しており、学校生活を送るには非常に厳しい状態でした。たとえ中学校へ来ることができても、欠席が多かったために学力が及ばず、教室でみんなと授業を受けることはほとんどありませんでした。また、教室の中で心ないことを言う生徒の発言に心を痛めたり、思うように同級生に関われない自分に戸惑うことも多く、結局中学校の卒業式もみんなと同席できませんでした。そんなFさんが母校訪問で、見違えるように成長し、有意義な高校生活を楽しそうに語ってくれたのは夢のようです。毎日登校し授業を受ける。もちろん出された宿題はきちんとこなす。時には、友人の悩みを聞くこともあれば、自分の悩みを打ち明けることもある。体力テストでは学校でなんと3番で、きちんと体育もこなしているとか……。中学校時代にできなかったいろいろなことを今、精一杯こなしている姿が目に見えました。高校の先生方、これからも輝き続けるFさんをよろしくお願いします。（抜粋）

（兵庫県 公立中学校M先生より）

＜吉備高原学園高等学校へ入学したM君がその年の11月に母校を訪問、対応してくださったK先生の感想＞

この度は本校卒業生であるM君が大変お世話になっております。本人は中学校1年生の時より、なかなかクラスに入りにくく、別室登校を続けました。3年生になり、少しずつクラスに入れるようになりましたが、今まで親から離れることができなかった生徒だったので、家を離れて寮生活ができるのか、われわれ教員も不安でした。今回の母校訪問で本人は不安そうな表情もなく、元気で寮生活を送っていることがわかり、大変安心しました。M君が楽しい学校生活を送っていることを感謝しております。（抜粋）

（岡山県 公立中学校K先生より）

＜吉備高原学園高等学校へ入学したO君がその年の11月に母校を訪問、対応してくださったD先生の感想＞

中学校在学中、ほとんど家族に送ってもらって登校していたO君が、自転車で元気に来校しました。礼儀正しくきちんと挨拶して職員室へ入って来た時、顔色も良く身体もひきしまり、会話の受け答えもしっかりとでき、ずいぶんたくましくなったと教職員一同びっくりしたほどです。何よりも本人の口から「吉備高原学園高等学校へ行ってよかった」という言葉が聞けてうれしく思いました。寮生活ならではの先生方や先輩方とのふれあい、そして悩みを相談できる人との出会いにより、すっかり学校生活・寮生活に慣れ、部活や行事にも楽しく参加できていて、すでに2年生からのコース選択も決めているとのこと。中学校時代にはなりたいた自分になれないことで苦しんだり、自己決定して自分の考えを述べることも苦手だったO君が、明るい表情で自信をもって話ができるようになったこと、自尊感情をとりもどし安心して学校生活を送れるようになったこと、吉備高原学園高等学校の先生方や生徒さん達に感謝の気持ちでいっぱいです。この母校訪問の体験を通してさらに自信をもって日々の生活を歩んでいってくれることを信じています。まさに一人ひとりの学びと育ちを支える環境づくりを徹底しながらの、すばらしい教育の成果ではないかと感じました。（抜粋）

（徳島県 公立中学校D先生より）

※中学校の先生方からは記載の許可をいただいています。



これからが、ここからはじまる。

吉備高原学園高等学校

全日制/普通科/全寮制

〒709-2393 岡山県加賀郡吉備中央町上野2400番地
Tel.0866-56-8211 Fax.0866-56-8214